



# 大事な物も 独占しない

神辺小、中時代の同級生 藤井 敬三さん 54  
小学校の時、一緒に黄葉山の城跡で探検ごっこに没頭し、皆で探し集めた古いかわらの紋様を菅波が解説した。温厚で、声を荒らげることもないリーダー格だった。

自宅にもよく遊びに行った。10人ぐらいで、広い本陣の敷地内にあるギンナンの実を拾い集め、それを高屋川できれいに洗って八百屋に売った。菅波はそれで皆が使う野球道具を買いそろえた。バットも簡単に手に入らない時代。絶対、独り占めはしないやつ。これは強烈だった。

古代から朝鮮半島や中国大陸と結ぶ重要な交通路だった山陽道の宿駅として発展した神辺町。江戸時代の神辺宿があった町の中心部には、今もなまじ壁の蔵や黒い土塀の街並みが残り、当時のたたずまいを伝えている。国際的な緊急救援医療活動でノーベル平和賞の候補にもなったアムダ（AMDA）理事長菅波茂さんは、宿場の中核だった神辺本陣に生まれた。神辺宿は江戸末期、長崎から欧米の文化を大坂、江戸へ運んだ九州往還の中継地として栄え、幕末の文人に影響を与えた「蕪瓢」を興した菅茶山（一七四八―一八二八）も菅波家ゆかりの人。そんな環境に育った菅波さんは、生家での思い出から国際活動、真の地方分権まで、古里を温かく語った。

（聞き手・花谷レイ子）

アムダ（AMDA）理事長

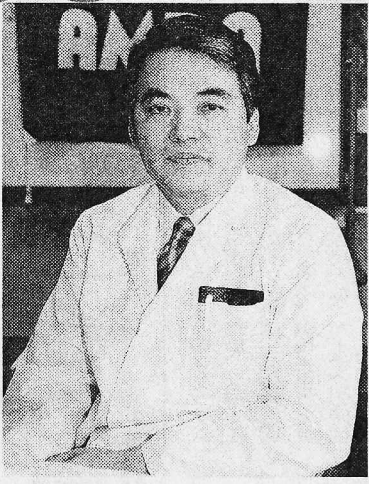
## 菅波 茂さん

生まれた神辺本陣は黒塗りの土塀に囲まれて、独特の雰囲気がありますよね。世間と隔絶したところもある。でも、特別とも思わず、当たり前で育った。友だちも遊びに来て、中でちゃんぼらごっこをしたり、屋根に上ったりしてね。かわらを壊してよく怒られていました。本陣に生まれて良かったことは、海外に行って（要人に会う場合も）相手の大きな家を見てむびぢらないこと。

昇を探した。人格形成に最も大切な小学校時代、遊びの中には未知との出会いがあった。リーダーシップとか探検家精神も培われた。緊急救援には困った人を助けるだけではなく、探検家の要素もあると思います。古里神辺には、できればローカルなアイデンティティを失わないでほしいですね。海外との接点を持つのもいい。

思い出深いのは、神辺小学校の横にある黄葉山。昔神辺城があったところで、探検して遊ぶのにはよかったです。十五、六人のグループが二手に分かれ、戦争ごっこかね。準備後園分寺あたりの山では水

い。日本は元来、海洋民族だといふ視点を復活させたいと思いますよ。盛んにいわ



# 探検家精神育ててくれた

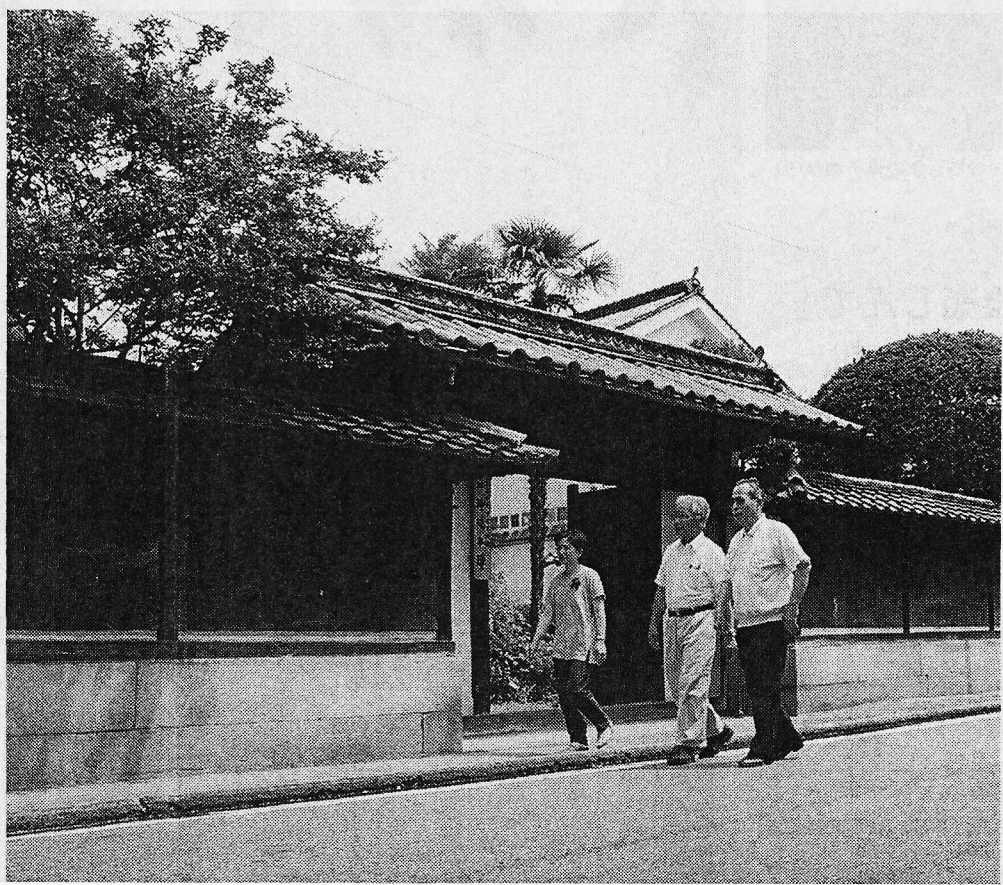
れている地方分権のキーポイントは、地方がいかに海外と連携できるかです。姉妹都市とかではなく、ビジネスに直結した海外での連携です。アムダが（神辺に）何らかのかたちで役立つなら、いつでもお使いください。海外にはアムダのフィールドがありますからね。

いる「必要とされている」ということが生きがいになっている。ボランティアをするということは、この三つのうちどれかが満たされ、自分の存在を確認することと思

のこを考えない。一方的に押し付けて、思い通りの結果が出ないと、不満や逆ギレする未熟さが出る。方法論とか、人間の本質論とかをきちんと学んで取り組まないと、人間関係が破たんし

日本のNGO（民間活動団体）は阪神淡路大震災の時に認知されたと思う。ボランティアも多くなった。人間は関心を持たれる。「覚えられて

にもプライドがあるということ。ボランティア活動を通して自分探しだけに余念がない人は、相手



神



## 友だち多い

## 親切な性格

小学校時代の担任で、福山大勤務

高尾 俊行さん 64

神辺小当時の学習記録を調べてみると、「親切でだれとでも親しく、正義感が強い」と記してある。大らかな性格で、友だちが非常に多くできる子だった。

教師に宿直があった時代で、菅波君たちも宿直室によく遊びに来ていた。駄菓子やラーメンを食べ、楽しい時間を過ごした。下校時間も気にしないで、教師と児童が密な関係を築けたい時代だった。

卒業記念の寄せ書きに選んだ言葉は「夢」。最初に送ってくれた彼の著書も「遥(はるか)なる夢」。あのころから、壮大な夢を思い描いていたのだろうか。

てしまします。

私たちが備後方面で募金や本格的な講演をするようになったのも震災以降です。活動が古里にも広まることはうれしい。私が岡山のディケアセンターなどに「茶山」とか、

神

辺

菅波さんが生まれた神辺本陣 (柴田清美撮影)

「本陣」とか神辺ゆかりの名前を付けたのも生まれたいころが懐かしいか。



## 幼い時から 信念曲げぬ

弟で県立歴史博物館職員  
菅波 哲郎さん 53

年齢の近い男兄弟は3人いたが、中でもいちばん頑固。言い出したら譲らない、信念を曲げないタイプだった。幼い時代の写真を見ても、兄弟共有の1台しかない三輪車にしっかりと乗って写っている。

最近、「アムダのことなんて広島じゃ大して知られていない」と、兄に言ったことがある。「知られなくとも、国際的な活動は実際にできているのだから、そんなことは問題ではない」と、力強い言葉が返ってきた。ちょっと感動した。

## 大物輩出の 古里を誇る



神辺女性会会長  
宇都宮 美代子さん 70

一昨年、女性会を含む30人程度のグループで、岡山の本部を訪れた。最新設備の整った立派な建物を想像していたが、案内された事務局は書類や救援物資が山積みされ、狭苦しい中を職員たちがせわしなく動き回っていた。「充実した人生」を送っている人たちの姿を見たような気がした。

テレビなどで活動が紹介され、先生が映ると、画面に向かって「がんばって」と、声援を送りたい気持ちになる。大物を輩出し「神辺もまんざらでもないな」と思う。

## オムニバスひと



## 思ったこと すぐに実行

備後国分寺住職  
横山 宗司さん 72

江戸時代に宿場町として栄えた神辺は、戦災を免れ古いものが多く現存している。茂さんが生まれた本陣も、菅茶山の廉塾もそう。茂さんとは面識こそないが、弟の哲郎君とは一緒に神辺郷土史研究会で活動した間柄。

災害が起り、援助が必要となるのは、開発の遅れた地域が多く、現地に行くだけでも大変な労力だ。まねをしたくともできない。思ったことをすぐ実行できる器量はうらやましい。茂さんは、学者肌の菅波家が生んだ良い意味での異端児だと思う。

すがなみ・しげる 1946年生まれ。76年岡山大学医学部大学院卒業。岡山大学医学部第一内科の勤務医などを経て81年岡山市で開業。84年国際医療NGOのアジア医師連絡協議会「アムダ」(AMDA)を、91年には「AMDA国際医療情報センター」を設立した。アムダ(The Association of Medical Doctors of Asia)は、自然災害や戦争が生んだ難民の緊急救援医療活動から、各国での地道なプロジェクトにも参加。阪神淡路大震災でも、被災地に一番乗りして医療活動を行った。本部は岡山市。世界30か国に支部がある。93年外務大臣表彰。96年厚生大臣表彰。岡山市在住。